

対象	小学校高学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学6年 「町人の文化と 新しい学問」 ・ 国学の発展と 新しい時代への 動き
教科書	東京書籍等
掲載日	2018. 6. 15. 朝刊 松阪紀勢版

# 宣長の勉強法教えます



学問の心得が記された掛け軸などが並ぶ展示＝松阪市の本居宣長記念館で

## 松阪の記念館で企画展

松阪出身の国学者、本居宣長の学問への姿勢を紹介する企画展「教えて！宣長先生の勉強法」が、松阪市殿町の宣長記念館で開かれ

ている。大家が歩んだ道を振り返り、効率的に学習を進め、知識を積み上げる方法を知ることができる。  
(水谷元海)

### 図で理解／優先順位つける

晩年、学問の心得を問われて詠んだ「家の業」では、家業をおろそかにせず、生活を成り立たせる大切さを訴えた。物事の軽重を見極め優先順位をつける必要性を説いた「本末の歌」もある。井田学芸員は「夏休みと重なるので、子どもたちには宣長の勉強法を参考にし、自ら考える大切さを知ってほしい」と話す。九月二日まで。

歌会は学問を志す仲間を増やす良い機会で、彼らに源氏物語の講釈もした。「一人との触れ合いで得る情報量が格段に増え、後の研究を支えた」と井田もも学芸員(左)。仲間にも歌会を楽しむ宣長が描かれた掛け軸「鈴屋円居図」(作者不詳)もある。

宣長は八歳の時に松阪で漢文などの手習いを始め、二十三歳で医学を学ぶため京都へ。松阪に帰ると医業の傍ら、歌会に参加し人脈を広げた。生活と趣味、学問を両立させ、六十九歳の時に、日本最古の歴史書である古事記の注釈書「古事記伝」を完成させた。展示では、生涯、学問に打ち込んだ宣長の勉強法を「ひとりぼっちの物学び」と「人とのつながりの中の学び」に分けて紹介。直筆メモや図、書物など七十九点を並べている。十二歳ごろから書き始めたメモ「万覚」には、手習いで読んだ書物の内容や、上手な洗濯の仕方、植物の育て方も記され、幼い頃から何にでも興味を持って記録していたことがうかがえる。複雑なことは図にして理解を深める習慣もあり、親族の呼称を整理した「宗族図」や、家系を記した「本居氏系図」も残した。

問1：見出しに宣長の勉強法が二つ書かれています。その事がわかる展示物は何でしょう。

「図で理解」・・・( )

「優先順位をつける」・・・( )

問2：宣長の学びを年齢を追ってまとめてみよう。

8歳で( )の手習いを始め、12歳頃から( )というメモ

を書き始め、23歳で( )を学んだ。

問3：宣長の代表作は何でしょう。( )